



月刊バイブル（世界のベストセラー、聖書のトリビア）

第10号

発行:レムナントキリスト教会

価格:100円（送料込みで200円）

〔目次〕

- ◎聖書からのメッセージ:神のひとり子を与える エレミヤ
- ◎高ぶりを打ち砕く:進化論の誤り(6)「捏造されている生物教科書」
- ◎箴言から学ぼう!:良いことばを口から出していく
- ◎詩篇を読む:善をよろこぶ神
- ◎キリストを信じた体験談:上着のボタン
- ◎聖書に関する偉人のことば:矢内原 忠雄(東大学長)
- ◎ご案内:聖書贈呈、聖書通信講座

<聖書からのメッセージ>

神のひとり子を与える

by エレミヤ

〔聖書箇所〕ヨハネの福音書3:16-18

3:16 神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。

3:17 神が御子を世に遣わされたのは、世をさばくためではなく、御子によって世が救われるためである。

3:18 御子を信じる者はさばかれない。信じない者は神のひとり子の御名を信じなかったので、すでにさばかれている。

今回は、「神のひとり子を与える」という題で、この件をみていきたいと思えます。テキストは上記聖書箇所です。この箇所をみてみましょう。

「神は、実に、～世を愛された。」

まず、基本の基本として、知らなければならぬことがあります。神、すなわち、天をも地をも創造した神は、この世を愛しておられ、この世に住む我々を愛しておられる、ということなのです。「愛」とは、何も男女関係のことをいっているのではなく、要するに神は我々に対して、憎しみや悪意をもって接しているのではなく、逆に愛をもって接してくださる、ということをお話なのです。

神はたしかに目にはみえず、その声も聞こえない方なのですが、しかし、神がこの世に住む我々に対して払ってくださる配慮をもって、その愛をたしかに知ることができます。たとえば、無口な人でも、無言であいさつをしてくれたり、席をゆずってくれたり、重いものを持つのを手伝ってくれたりするとき、我々はその人の愛や配慮を感じることがあります。神もおなじような方なのです。神はたしかに肉の耳で聞こえる声では語らないのですが、しかし、神の配慮をとおして、我々は神の愛をひしひしと感じます。

神のひとり子を与える エレミヤ

たとえば、春になると、今までの風景と一変して、あたりが花で満ちるようになります。梅が咲き、桜が咲き、すみれが咲き、チューリップが咲くのです。

これらはみな、わたしたちを楽しませるため、よろこばせるために、神が用意し、咲かせてくださった花なのです。これらをとおして我々は声では語らないが、しかし、我々に配慮してくださる神の愛を感じるのです。

「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。」

この箇所では、神が我々世に住むものを愛するその愛の発露、見えるかたちとして、いわば究極の愛のしるしとして、その「ひとり子」をお与えになったことが書かれています。男女が婚約すると男性から女性へ愛のかたちとして、「婚約指輪」を交わす習慣があります。男性が奮発して高価な指輪を買い、それを見て女性が自分への愛を確信してよろこぶ、ということなのでしょう。

それらの指輪もたしかに高価でしょうし、買うのは大変なのでしょうが、しかし、人の命には代えられません。そうです、神さまの場合、我々にそれこそ、究極のプレゼントとして、自分のたった一人の子さえ、与えてくださったとみことばは語るのです。

しかし、何のためなのでしょう？ どのような理由があって、そのような大事なプレゼントを神は我々に与える必要があるのでしょうか？

「それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」

その理由として、ほかでもない、我々の滅びとか、永遠の命が関係することが、ここでは語られています。ですので、いわんとしていること、語られていることはこういうことです。

神もそのひとり子を犠牲になどしたくはなかったのです。しかし、世にある我々が滅んだり、死後、永遠のさばきに入るのをみるのは忍びない、それで、あえて自分のひとり子、すなわち、

イエス・キリストを犠牲にして、この世の人々が救われるための道を開いた、そのようにここでは語られているのです。

このことに関して、このような例でわかるでしょうか。あれは、たしか東京の高田の馬場の駅のことです。ある酔った男性が駅のプラットフォームから落ちてしまったのです。そして、あろうことか、電車が構内に入ってきました。このままでは、この人は電車にひかれて死んでしまう、と思ったその時、その場に居合わせた男性二人（一人は韓国の人）がプラットフォームから飛び降りて、その人を救おうとしたということです。結果残念ながら、間に合わず、みな電車にひかれて死んでしまいました。

この時、プラットフォームから飛び降りた二人の男性の立場に立つなら、そのように危険なこと、つまり線路に飛び降りる義務もないし、だれも強制はしなかったでしょう。しかし、彼らは電車にひかれてしまうかもしれない男性のことを見捨てておくことはできず、それであえて自分の命の危険をかえりみず、危険な線路に飛び込んだのです。そして、それは神にあってこそそうなのです。我々に迫る滅びやら、死後のさばきをみるには忍びがたかったのです。それでひとり子であるイエス・キリストを惜しまず、世のために犠牲にしたのです。このような意味合いが語られていることを、ぜひ、知ってください。

そして、もうひとつははっきりと知らなければならぬことがあります。それは世に住む我々が直面している危険、滅びの危険ということなのです。聖書は、我々が自分の罪や行いを糾していかないとき、死後永遠の滅びに入る可能性があることをはっきりと語ります。以下のとおりです。

〔聖書箇所〕ヨハネの黙示録20:12-15

20:12 また私は、死んだ人々が、大きい者も、小さい者も御座の前に立っているのを見た。そして、数々の書物が開かれた。また、別の一つの書物も開かれたが、それは、いのちの書であった。死んだ人々は、これらの書物に書きしるされているところに従って、自分の行ないに応じてさばかれた。

20:13 海はその中にいる死者を出し、死もハデスも、

神のひとり子を与える エレミヤ

その中にいる死者を出した。そして人々はおのこの自分の行ないに応じてさばかれた。

20:14 それから、死とハデスとは、火の池に投げ込まれた。これが第二の死である。

20:15 いのちの書に名のしるされていない者はみな、この火の池に投げ込まれた。

ここに書かれていますように、私たちが生きておるときにおこなうあらゆる言動はみな、書物に記載されています。我々がおこなった悪いこと、人の悪口をいったり、ケンカして頭をたたいたことや、ささいなうそも、意地悪な行動もみな、書物に記されている、というのです。だれでも大なり小なり悪いことをおこなっているのです、ここでいう死後の罰を免れる人などいない、といえるでしょう。あなたも私も、ここでいう火の池に投げ込まれる運命かもしれません。しかし、そうであるがゆえに、冒頭のことばが書かれています。そのために、救い主、すなわち、火の池のさばきから救い出すイエス・キリストのことが書かれています。「**御子**を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」とは、この死後の滅びや、さばきから我々が免れる道がある、として救いの道を語っているのです。

上記黙示録に、「いのちの書に名のしるされていない者はみな、この火の池に投げ込まれた。」として、「いのちの書」のことがいわれています。そして、キリストを信じる人こそが、その「いのちの書」に名前を記されている人なのです。また、「永遠のいのち」を持つ人なのです。

「神が御子を世に遣わされたのは、世をさばくためではなく、御子によって世が救われるためである。」

ここでは、神の御子であるイエス・キリストが、なぜ、この世に遣わされたのか、その理由について記してあります。それは、「**世をさばくためではなく**」すなわち、わたしたちを糾弾したり、非難したり、悪口をいうためではありません。そうではなく、「**御子によって世が救われるためである。**」すなわち、死後我々に襲いかかろうとするさばきの火、罰から免れるため、その道を開き、救いの道を講じるためにキリストは来られたのです。

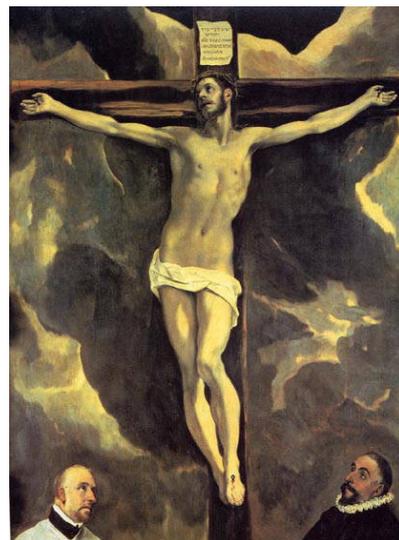
「御子を信じる者はさばかれない。信じない者は神のひとり子の御名を信じなかったので、すでにさばかれています。」

このように、大事なことを聖書は語り、神は語るのですが、しかし、残念ながらすべての人が「そうですか」といって、イエス・キリストを信じるわけでもなく、受け入れるわけでもありません。しかし、キリストを信じる者はさばかれない、と語られていることに耳をかたむけてください。以前にも書きましたように、聖書は神が著者である、と公言している世界でたった一冊の本です。そして、聖書の中心人物は、イエス・キリストなのです。そしてイエス・キリストの生涯で有名なことは、彼が十字架にかかって死なれたことです。その死は、キリスト降誕の前に書かれた旧約聖書の中に預言されていたこと、いわば神の計画の中にあつたことです。その死の意味合いはいわば、我々が受ける罰や刑罰の代わりとして死なれた、と聖書は語ります。以下のとおりです。

〔聖書箇所〕ローマ人への手紙4:25

4:25 主イエスは、私たちの罪のために死に渡され、私たちが義と認められるために、よみがえられたからです。

このようなキリストの犠牲をむだにしないよう、ぜひ、聖書の声に耳をかたむけていきましょう。

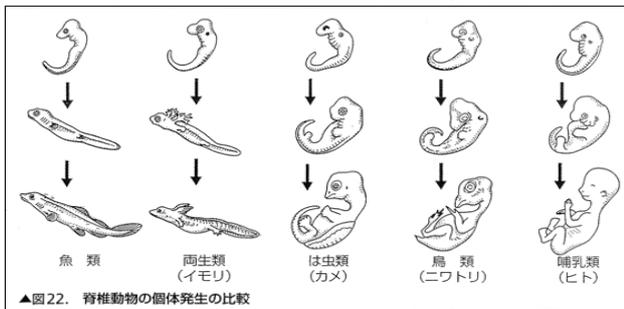


キリストの十字架は我々の罪を許す

高ぶりを打ち砕く：進化論の誤り(6)捏造されている生物教科書

人はどこから誕生したのか？その問題に関して聖書は、「神が人を創造した」と述べます。しかし、日本においては、学校で進化論がおしえられており、人は猿から進化したと説きます。では、その進化論は正しいのか？それをこのシリーズでみています。

今までみてきましたように、進化論には、捏造された証拠が多いのです。そして、それだけではなく、さらにもうひとつのことを、我々は進化論に関して知らなければなりません。それは、こと進化論に関しては、学校の教科書の中で、今でも嘘の証拠や記述が用いられている、ということ、です。すでに捏造である、と証明されたインチキな図や証拠が、今でも進化論の証拠として教科書内で用い続けられているのです。信じられないかもしれませんが、ひとつだけ例をあげます。



▲図22. 脊椎動物の個体発生比較
東京書籍『生物Ⅱ』(2005)より

この図は、以前も説明したヘッケルの「個体発生は系統発生をくりかえす」という理論を説明する図です。現在の日本の高校で用いられている生物の教科書、東京書籍「生物Ⅱ」2005年版に掲載されているものです。この教科書にかぎらず、日本中の高校の教科書で、これと似た図が使われています。

この図には魚、イモリ、亀、ニワトリ、人の子と、それぞれの胚の図が描かれています。この図にしたがうと、人も鳥も、生まれてくる赤ん坊の姿は異なるのですが、しかし、その胚の姿はどれもおなじようなものであり、非常に似ていることに気づくようになります。

そして、ヘッケルはこの図にもとづいて、鳥も人も、その共通の先祖はおなじであると説くのです。すべての生物は、共通の先祖から枝分かれしたとの進化論は正しい、その証拠として、人も鳥も魚も、その胚の状態に注目すれば、おなじ形状であることが証拠である、と説くわけです。いわば、この胚の図は、進化論の強力な証拠、動かぬ証拠となってい

るわけです。しかし、その肝心のヘッケルの胚の図は、じつはまったくの捏造の図なのです。これは、実際の鳥や亀の胚を描写したものではなく、彼が勝手に自分の思惑、彼の進化論への思いこみに基づき、意図的に作成したものなのです。

この捏造は、まだヘッケルが生きていた19世紀に、すでに他の学者から指摘されたことなのです。また、ヘッケル自身も自分の捏造を認めているのです。実際の鳥や亀の正しい胚は、以下の図になります。

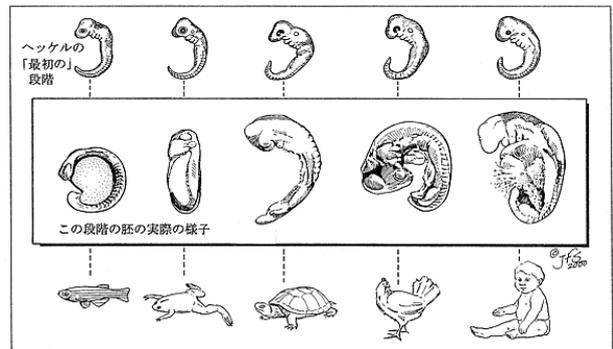


FIGURE 5-2 ヘッケルの絵と実際の脊椎動物の胚の比較
Jonathan Wells, *Icons of Evolution* (2000)より

この図の真ん中にある胚が、鳥や亀のそれぞれの実際の胚なのです。この図の上段にあるヘッケルの書いた胚の図とは、まったく似ていないことがわかります。しかし、問題は、今でも日本の教科書には、ヘッケルのインチキの図が何の注釈も訂正も無く、掲載されている、ということです。

ですので、いざ、進化論に関しては公平であるはずの学校の教科書さえ、真実を語ってはいない、一方に肩入れした内容となっていることをおぼえておいてください。

聖書には、「**光はやみの中に輝いている。やみはこれを悟らなかつた。(KJV訳)ヨハネの福音書1章5節**」とのことばがあります。真理の光があっても、人々はやみの中を歩いており、その光に気づかない、という意味合いのことばです。このことばはたしかに正しく、進化論のやみに入ってしまう、真理の光、聖書の語る、「**神が人を創造した**」との光に気づく人は少ないのです。

箴言から学ぼう！:良いことばを口から出していく

〔聖書箇所〕箴言10:18

10:18 憎しみを隠す者は偽りのくちびるを持ち、そしり(KJV:中傷)を口に出す者は愚かな者である。

この世において、人のことを批判したり、中傷したり、ということ、とがめを受けるなんていうことは、ほぼ皆無かもしれませんが、あるいはこのようなことは日常茶飯事であったり、常識にさえなっているかもしれません。けれども聖書においては、そうではありません。「そしり(KJV:中傷)を口に出す者は愚かな者である」といわれているとおりでありまして、人をそしったり、中傷したりしてしまうときには、神さまの前には、「愚か」だというふうに、みなされてしまうようです。

かつてノンクリスチャンだったころのことですが、ある友人から何かの会話をしているときにいわれたことがあります。「ことばは武器になるんだよね。平気で人のことを傷つけることができちゃうんだよね」と。その当時はピンとこなかったのですが、しかし今にしておもえば、「たしかにそれはほんとうだ・・・」とうなずくものがあります。

つまり、わたしたちが日ごろ、どんなことばを発するか？は、とても大事だということがわかります。それでは、聖書では、口に出すことばに関してどんなことをおすすめているか？について参考までにみましましょう。

〔聖書箇所〕エペソ人への手紙4:29

4:29 悪いことばを、いっさい口から出してはいけません。ただ、必要なとき、人の徳を養うのに役立つことばを話し、聞く人に恵みを与えなさい。

ここで、「悪いことばを、いっさい口から出してはいけません」とあります。たしかにことばづかいも大事かもしれませんが、けれども、「悪いことば」を口から出すことにはまったくポイントがないことがわかります。ちなみに、「出してはいけません」のところはKJV訳では、「処分する」とあります。つまり「悪いことばをすてなさい」ということを言われているのです。もっというなら、「悪いことばとはお別れしましょう！」ということでは？とおもいます。

そして、もし口からことばを出すのなら・・・「人の徳」を養ったり、「恵み」をあたえたりする、ということをおすすめています。日本語だと、すこしわかりづらいのですが、英語では、人を強めるとか、親切な良いことば、なんていうふうに訳されています。なので、人に何かを発するとき、そういったことをこころにとめておくとはよいのでは？とおもいます。そうしていくときに、その人のこころに、よろこびや平安（おだやかな思い）をあたえていくのでは？とおもいます。そしてそのことを生涯にわたってまっとうしていくときに、神さまから「愚か者」あつかいをされることはなく、反対に「ほまれ」を受けるのでしょう。

よろしければこういうこともご理解いただくとさいわいです。そしてほんのわずかでも、そうかもねえ、なんておもいましたら、ぜひ、実践してみてください。



良いことばを口から出そう！

詩篇を読む:善をよるこぶ神

〔聖書箇所〕詩篇5:4

5:4 あなたは悪を喜ぶ神ではなく、わざわざい、あなたとともに住まないからです。

聖書の中で、神さまのさまざまな特色について書かれています。そのひとつとして、神さまは「悪」をよるこぼず、「善」をよるこぶ、ということをおわれています。

この世では、「悪」に関して、よほど大きな罪を犯さないかぎり、それほど言われることはないかもしれません。また、もしかすると「悪」ということに関して、無感覚になっているケースも、めずらしくないかもしれません。

聞いたところによりますと・・・たとえば、殺人を犯した人に、「あなたは悪いことをしたと思って反省していますか？」と質問したときに、「いいえ、自分は何も悪くありません」と答える人がいるそうです。すこしばかりすよね？また、刑法に関与する事柄ではなくても、ささいなことであっても、悪いことがまかりとおってしまう、なんていうことが往々にしてあるのでは？ともおもいます。

そしてこういうことは、たしかに人の前にはほとんど問題にはならないのかもしれませんが・・・しかし神さまの前においては、そうではなさそうです。どの程度の問題になるのかはわかりませんが、すくなくとも、よるこぼれないことは事実です。

その結果、「わざわざい、あなたとともに住まない」と書かれていますように・・・これはつまり、悪いことばかりしていると、神さまが共にいてくださることはなく、しかもそれだけではなく、もしかするとあらゆるわざわざいで満ちていく可能性があることを語っているのでは？ともおもいます。なぜなら、このように書かれているからです。

〔聖書箇所〕I ペテロの手紙3:13

3:13 もし、あなたがたが善に熱心であるなら、だれがあなたがたに害を加えるでしょう。

ここで、「善」に熱心である場合に関してのことが言われています。わたしたちが、「善」、す

なわち、良いことに熱心になっていくときに、「害」から逃れていくことが理解できます。そして、この「害」ということばは、さきほどの「わざわざい」とおなじことをいわれているのでは？ともおもいます。ですので、人さまの前も大事かもしれませんが、しかし神さまの前に良いことをおこなっていくことに大いにポイントがあることを理解できるのでは？ともおもいます。なんといっても、「害」とか「わざわざい」から、まもっていただけるのですから・・・そしてそれだけではなく、周囲の人びとにもよるこぼただけです。よるしければ、ぜひ、おすすめします。

だいぶ前のことですが、ある教会のホームページにアクセスしたときに、ひとつの記事が目にとまりました。牧師さんが書かれていたのですが、「良いことだけをおこなうことを、心がけてください」とありました。みじかい文章でしたが、わたしのところに感銘をあたえるものとなりました。そして、このことばは、今回の聖書箇所のおしえに、まさに通じるのでは？ともおもいました。

くりかえしますが、「悪」をおこなっている、というときに、神さまが共におられることはなく、しかも、「わざわざい」が送られてくる可能性がありますので、気をつけていきたいともおもいます。ですから、どんなことであっても、これは悪かな？なんておもうことがありましたら、ただちにそのことをすて去って、「善」をおこなっていくように、軌道修正をしたいともおもいます。そうしていくときに、神さまはよるこんでくださり、また、あらゆる点で、助けや守りをあたえてくださいますので、ぜひ、おすすめいたします。よるしければこういうこともご理解いただけるとさいわいです。



善を行うなら神さま(イエスさま)に守られる

キリストを信じた体験談:上着のボタン

今年は例年にくらべてすこし暖かいのか、家長がいつもよりも早めに春もののスーツをクローゼットから約半年ぶりに取り出していました。翌日には着ようとおもったようですが、ふと見ると、上着の前のボタンが2個割れていました。クリーニングをしてからは一度も着用していませんでしたので、そして、クリーニングに出す前は、そのようなことはなかったのですが、もしかするとそのときにそうなったのでは？とおもわれたので、翌日聞いてみることにしました。

「できればおなじボタンに付け替えてもらえるといいなあ」といっていたので、「うん、そうだね」と話している中で、「あっ、予備のボタンがひとつだけあった!」と気づいたのですが、「でもなあ、ひとつだけあっても仕方が無いか・・・」という感じでした。

翌日になって、お店へ行く前にひとことお祈りしました。「もう半年も経っているから、ひょっとすると取り合ってもらえないかもしれない。しかもクリーニング後に、こちらでは一切確認もしなかったのだから・・・でも、きちんと話を聞いてもらえますように。そして、できればおなじボタンに付け替えていただけますように。」と。そして出かけると、明るくて感じのよさそうな店員の方が出て来られたので、もしかしたら話を聞いてもらえるかも・・・と思い、かくかくしかじかで、と事情を話しました。すると「少々お待ちください」と言って、工場のほうに問い合わせてくださいました。それから「あの一、似たようなボタンでもよろしいでしょうか?」と聞いてこられたので、「一度本人に確認してみますね」と言ってお店を出て電話して聞いてみると、「うん、それでいいよ。」ということだったので、そのことをお店の人に伝えると、「わかりました。それでは仕上がり日が確定しましたらご連絡させていただきますね」ということでした。

きますね」ということでした。

それから夕方ごろ、「あさっての夕方に仕上がっています」という連絡をいただきました。そのときに、「あれから工場を確認したら、おなじボタンがあったそうです。」ということもおっしゃっていました。ボタンが変わることに、半ばあきらめていたのととてもびっくりでした。

あのとき、ダメで元々と、そんな思いでお祈りをしたのですが・・・そしてはじめは時期的にきちんと対応していただけるかどうかの不安すらあったのですが、しかし嫌がらずに親切に対応してくださり、しかもボタンもまったくおなじものに付け替えていただき、感謝でした。神さまがお祈りにこたえてくださって、また、期待していた以上のこともなしてくださったのでした。これからも、何かトラブルが起こったり、不安を抱えるようなことがあったりした場合に、まずはお祈りをしてみよう!とおもいました。とても小さな証ではありますが、何かのお役に立つことができればさいわいにおもいます。

“万軍の主よ。なんと幸いなことでしょう。あなたに信頼するその人は。(詩篇84篇12節[新改訳聖書])”



主に祈りを捧げる

聖書に関する偉人のことば:矢内原忠雄のことば／お知らせコーナー

<聖書と偉人>

矢内原忠雄(経済学者、東京大学総長)日本の良心と呼ばれたクリスチャン



聖書は学者の書であり、無学者の書であり、万人によって万人にまなばれるべく、万人によって解されるどころの人類の書なのである。我々が謙虚になって聖書をひも解いて見れば、それ(知識)は、もっとも基本的な私たちにおいて聖書にしめされておる。これを今日の社会情勢と人間の知識の進歩と世界の複雑性に照らし合わせて応用すればよいだけです。根本は聖書にしめされているとおりであります。

<お知らせコーナー>

●聖書贈呈プレゼント！聖書通信講座！

月刊バイブルお読みになっていかがでしたか？少し、聖書に興味がわいてきましたでしょうか？このたび、当教会では聖書贈呈、プレゼントを行っています。この機会に聖書をあなたも読んでみませんか？また、ご希望の方には、聖書通信講座も開設しました。申込者全員へ、贈呈可能です。ご興味がありましたら、ぜひ、お申し込みください。

以下を記載の上、mail:truth216@nifty.com もしくは fax:020-4623-5255 もしくは tel:042-364-2327 へ連絡ください。

- (1) 聖書贈呈に申し込みます。
 - (2) 聖書通信講座に申し込みます。
- *ご希望の番号に○をつけてください。(複数可)

郵便番号:
住所:
名前:



見本

●レムナントキリスト教会「日曜礼拝」のご案内

曜日/時間:毎週日曜日/午前 10:30-12:30,午後 14:00-16:00

場所:東京都、京王線府中駅前、府中グリーンプラザ本館 (tel:042-360-3311)

1Fのエレベーター脇の部屋表示板で、「レムナントキリスト教会」の部屋を確認ください。

どなたでも来会歓迎、入場無料です。tel:042-364-2327, mail:truth216@nifty.com

★教会のHPもあります。

ご興味のある方は、「Yahoo! Japan」で、「府中 レムナントキリスト教会」で検索ください。

尚、レムナントキリスト教会はプロテスタントの教会です。ものみの塔や統一教会とは関係ありません。

☆クリスチャンになったばかりの方やノンクリスチャンの方におすすめのサイト:オリーブ&ミルトス

<http://remnantnotudoi.jimdo.com/>

☆クリスチャンの方におすすめのサイト:エレミヤの部屋

<http://www.geocities.co.jp/Technopolis/6810/>